資料1

学業充実WG・マネジメントWG（第1回）の振り返り

日本版NCAA創設に向けた学産官連携協議会
第2回安全安心WG

2017年11月6日（月）14時～17時

第1回学業充実WG（2017/10/13開催）振り返り① ~ワークセッションでの意見~

【テーマ】 学生アスリートを取り巻く学業関連の課題は何か

■ **検討の進め方**

- ✓ 学業とスポーツの両立を考える学生とスポーツ中心の学生がいるため、それぞれ異なったアプローチが必要
- ✓ 周りの環境、指導者、競技団体（学連）、学生の保護者などについても日本版NCAAがどのように取りまとめて利害調整を行っていくかを検討するかの検討が必要
- ✓ 認識の違いや大学の機能の違い（体育系の大学かどうか）なども考えて、基盤づくりを行っていくことが必要

■ **学生が学業を受ける権利の確保**

- ✓ 練習時間の制限や平日の試合開催の回避が課題。個別の大学では対処が難しいが、日本版NCAAができればうまくマネジメントしていくことが可能ではないか
- ✓ 入学の時に、一定程度の教育を行うことを大学が責任をもつというメッセージを出すことが必要
- ✓ 統一的な指導要領を用いて、現場の指導者に睨みをきかせる機能を日本版NCAAは有するのではないか。一方、学校によって方向性や特徴が異なるため、統一的な学業の成績を定めるのは難しいとの意見も

■ **学業とスポーツの両立**

- ✓ 全国アスリート入試などを実施してクリアした人だけが、NCAAに入れるようにするという提案もある
- ✓ 学生が地域貢献を行う取り組みや、社会に活躍する人の話を聞くなどの教養プログラムの設定が望ましい。単独の大学では実現が難しいため、統括的な組織があるといい
- ✓ 大学の自治と主体性を重視してきたが、重視と放任は異なり、学生の自治と主体性を確保するための時期がきている。非社会的な行為や平日授業を欠席することが学生アスリートに生じており、NCAAはそのような現状を変えていける

■ **大学コミュニティの一体化**

- ✓ スポーツ推薦で入学してきた学生が一般学生と交わらないまま卒業し、社会人になっても実業団に入ってしまうため、一般学生は応援する気も起きないことがある
- ✓ 競技以外の授業を通じて、横のつながり（友人）でき、キャリア支援を通じて縦のつながりができる。縦と横の支援をNCAAができることが重要

第1回学業充実WG（2017/10/13開催）振り返り② ~ワークセッションでの意見~

【テーマ】 学生アスリートを取り巻く学業関連の課題は何か

■ **学生アスリートの就職**

- ✓ 売り手市場であるが、バブルの頃とは体育会のプレミアムが違い、今は落ちてきている。理由は求められる人物像が変わってきており、以前は「会社人」、今は「社会人」が求められるため
- ✓ 各大学でスキルを育むのは難しいため、NCAAで大学横断的にリアルキャリアを作っていくことが必要

■ **大学部活動と大学の関係**

- ✓ 課外の活動であるため自治体組織にはなっているが、ほぼ大学側が援助をしているため、お金の動きも大学側が中心となっている
- ✓ 100%保険の加入が義務付けられているのは大学側としてすべてチェックをする
- ✓ 学内にトレーナー組織があり、ここには学生が将来トレーナーを目指したいとか、医学的な知識を持った中で対応、応急処置ができるという、将来APの資格を取りたいという学生の組織が、各クラブに張り付く仕組みになっているため、救急時も初期的な対応を適切に実施できる体制となっている

第1回マネジメントWG（2017/10/23開催）振り返り① ~ワークセッションでの意見~

【テーマ】 日本版NCAAを自立的な組織とするために各主体が果たすべき役割

■ **日本版NCAAの想定課題**

- ✓ 日本の大学スポーツはピラミッド構造となっており、上手くいっているところと上手くいっていないところ、その中間がある。それぞれのポジションにある大学に対して日本版NCAAがどういうメリットを出せるのかという議論が必要
- ✓ 会計面において、大学の運動部活動がアカウンタビリティを果たせるよう、日本版NCAAで報告用のひな型を整備できると良い
- ✓ 「国際競技力の向上」という観点で大学スポーツにどういう役割を求めていくかという大きなテーマがある。統括団体としての日本版NCAAが広く薄く様々な支援をしてくことは学生にとっては良いことでもある反面、（トップアスリートへの重点的な支援が薄まることで）国際レベルの学生の輩出を弱めてしまうことにならないかという懸念がある

■ **日本版NCAAを活用した大学の価値向上**

- ✓ 日本版NCAAがプラットフォームとして、大学生としてのあるべき姿を色々な形で共有し、横展開する機能を提供することで、日本の大学でアスリートをやることの価値を向上させていくことができる
- ✓ 大学にアリーナ・スタジアムを作り、そこに学生が集まり、応援できるような場になれば、学生のためにもなるし、大学のブランド力の向上にも繋がる。作るには当然お金がかかるが、資金面も含め日本版NCAAが支援することはできないか
- ✓ 地域や地域活性化等のブランディング。大学スポーツを上手く地域活性にも絡めていくような形を考えていくとよい

第1回マネジメントWG（2017/10/23開催）振り返り② ~ワークセッションでの意見~

【テーマ】 日本版NCAAを自立的な組織とするために各主体が果たすべき役割

■ **日本版NCAAがあるべき役割・機能を果たしながら、自立的運営を行っていくための活動資金の獲得手段**

- ✓ 学生アスリートをまとめ一定規模の会員データとなればそれを使ったビジネス展開を望む企業が出てくる。組織化したら大きな武器となると思うが、どこまでできるのかという体系を整理する必要がある
- ✓ アスリートに関する様々なデータを集めることで、その属性に応じた怪我の予防・治療法やトレーニング方法などが生まれてくる。トレーニング機器やヘルスケア部門の開発、食品・サプリの効果・効能を調べるなど色々な発展可能性がある。但し、個人情報について、どういった形で同意をとり、研究計画を作り、知財などをどう取り扱っていくかという制度設計をしっかり行うことが必須
- ✓ 加盟大学の学生アスリートを使った研究などの調査を共同で行うようなスポンサーシップの取り方も考えられる

■ **大学とOB・OGとのハブとしての可能性**

- ✓ 現在の日本の大学スポーツは、大学とOB・OGとの関係性のポテンシャルが十分に活かされていない。卒業後に関係性が維持できず、自分の母校が今何をやっているかを知らないケースが多い。関係性を繋ぐパイプやメディアがあれば、OB・OGからの応援したいという流れが起きてくることが期待される。大学スポーツをきっかけにOB・OGからの物理的な寄付や有能なOB・OGのビジネスパーソンからのナレッジによる支援を得られる可能性もあるのではないか